思考法解説

1. 思考法の種類

- 思考法は以下のように3分類できる。

ロジカル・シンキング	何らかの筋道だった論理で思考する思考法をいう。 日本語で「論理思考」とも言われる。
ラテラル・シンキング	何らかの筋道だった論理で思考する「ロジカル・シンキング」に対して、不連続に飛躍して考える思考をいう。 「水平思考」とも言われる。
クリティカル・シンキング	常識・前提・先入観・問題設定・問題構造・因果関係などの当然と思われていることを疑ってみる思考。 これにより、新しい結論が得られる。

禁無断転載・複製

1. ロジカルシンキング＝論理的思考法＝「正しく考える」のツール

■MECE（Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive）

- マッキンゼー社のコンセプト
- 事象等を分解する際に、この原則を守れ、これが的確にできれば、結論が出たも同然だと言っている。
- 日本語では「もれなくダブリなく」と言われる。
- MIND-SAでは「部分に分解」と称して、分解軸を「主体」「主語の内訳」「対象」とするとよい、としている。

■ロジックツリー

- 原因―結果、目的―手段、全体―部分などの関係で事象を論理展開することを図示するものである。

例

売上を上げる	来店客数を増やす	新規顧客を開拓する。
		既存顧客のリピート率を上げる。
	顧客単価を上げる	買上点数を増やす
		高い物を買っていただく

禁無断転載・複製

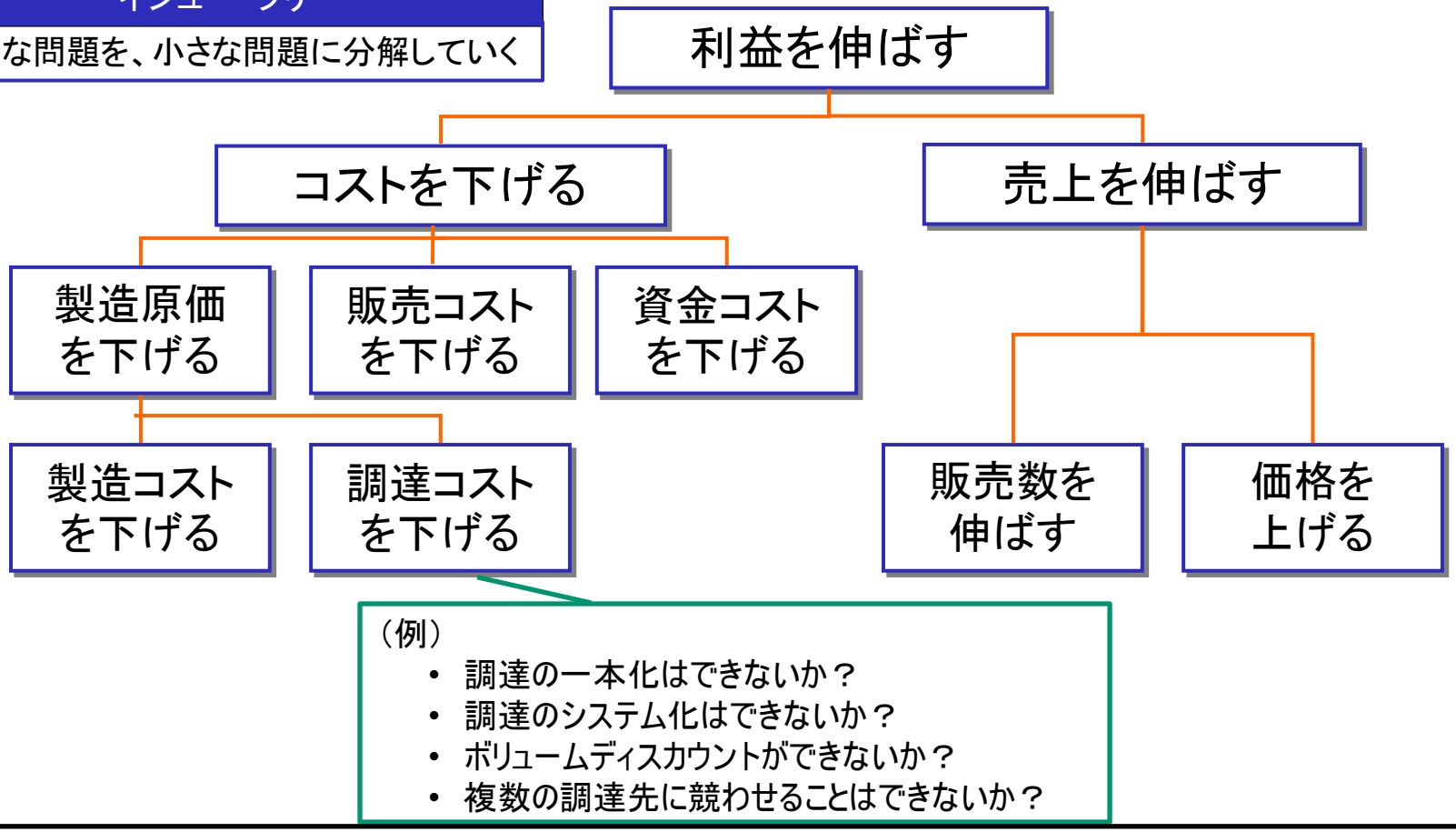
1. ロジカルシンキング＝論理的思考法＝「正しく考える」のツール

■イシュー・ツリー

- （イシュー=結果）ロジックツリーのうち、因果関係で展開する場合を特出してこう言う。
- 例：3分でわかるロジカルシンキングの基本（大石哲之著、日本実業出版社）

イシュー・ツリー

大きな問題を、小さな問題に分解していく

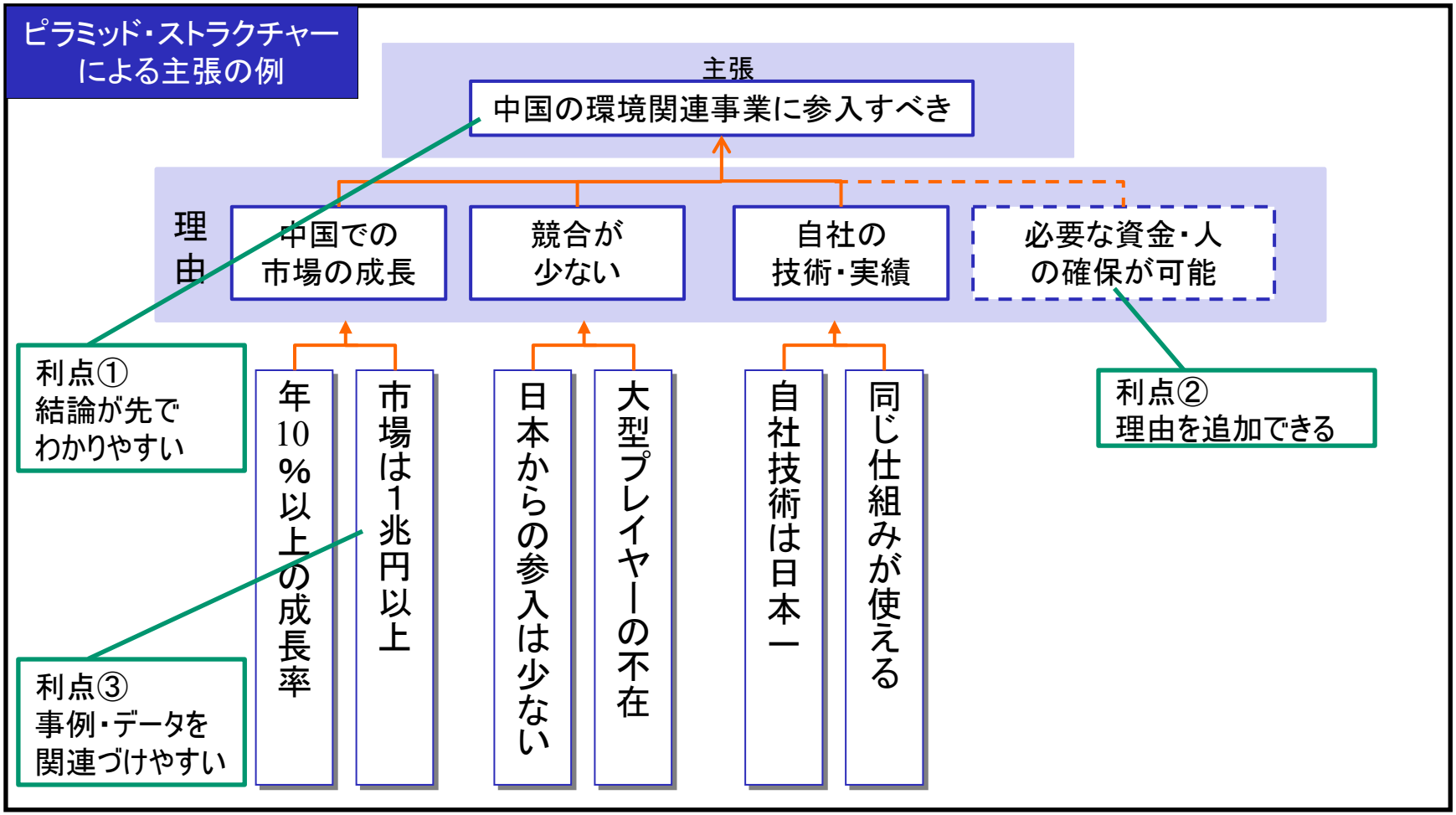


禁無断転載・複製

1. ロジカルシンキング＝論理的思考法＝「正しく考える」のツール

■ピラミッド・ストラクチャー

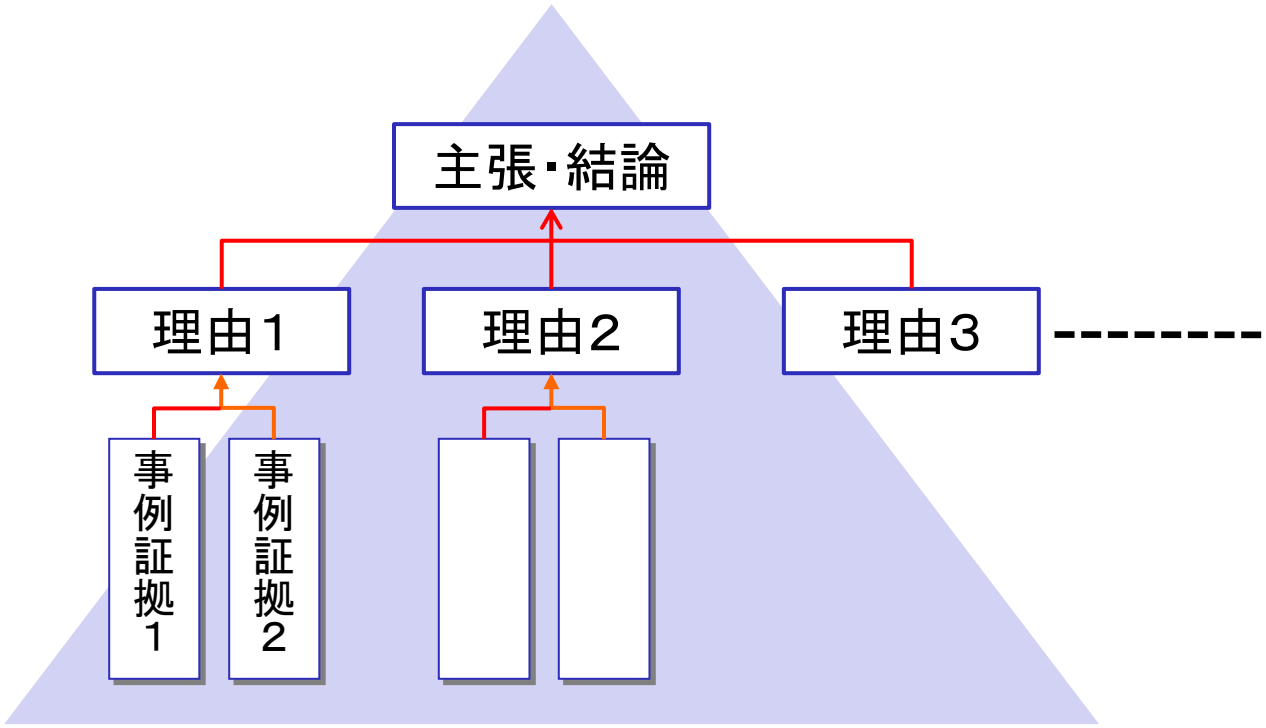
- 主張の論点・根拠を図で明示する。
- 例 ：3分でわかるロジカルシンキングの基本（大石哲之著、日本実業出版社）



禁無断転載・複製

1. ロジカルシンキング＝論理的思考法＝「正しく考える」のツール

ピラミッド・ストラクチャーのフレームワーク



ピラミッド・ストラクチャー作成時のポイント

- 主張を明確にすること
- 理由付けは主張を直接説明すること
- 理由付けはそれだけで十分か？　なぜ十分か？

禁無断転載・複製

1. ロジカルシンキング＝論理的思考法＝「正しく考える」のツール

■演繹法

- 一般的原理から論理的推論により結論として個々の事象を導く方法である。
- 代表的な手法に、大前提・小前提・結論による三段論法がある。

例

大前提　：　東北では、角餅を食べる。
小前提　：　岩手県は、東北である。
結　論　：　岩手県では、角餅を食べる。

■帰納法

- 個々の事象を集めて分析し、事象間の本質的な結合関係(因果関係)を推論し、結論として一般的原理を導く方法である。

例

事例収集　：　岩手県では角餅を食べる。
　　秋田県でも角餅を食べる。
　　宮城県でも角餅を食べる。
因果関係　：　岩手県、秋田県、宮城県は、東北である。
結　論　　：　東北では、角餅を食べる。

禁無断転載・複製

1. ロジカルシンキング＝論理的思考法＝「正しく考える」のツール

■起承転結　論述の展開法

起　問題（テーマ）提起

- こういうことが起きています。
- このテーマについて提案します。

承　問題（テーマ）の説明

- 現状はこうなっています。

転　異なる問題提起

- しかしこういう面もあります。
- しかしこういうことも可能です。
- よそではこうなっています。

結　結論

- したがって、こうしたらよいと思います。
- そこで、こうなります。

禁無断転載・複製

1. ロジカルシンキング＝論理的思考法＝「正しく考える」のツール

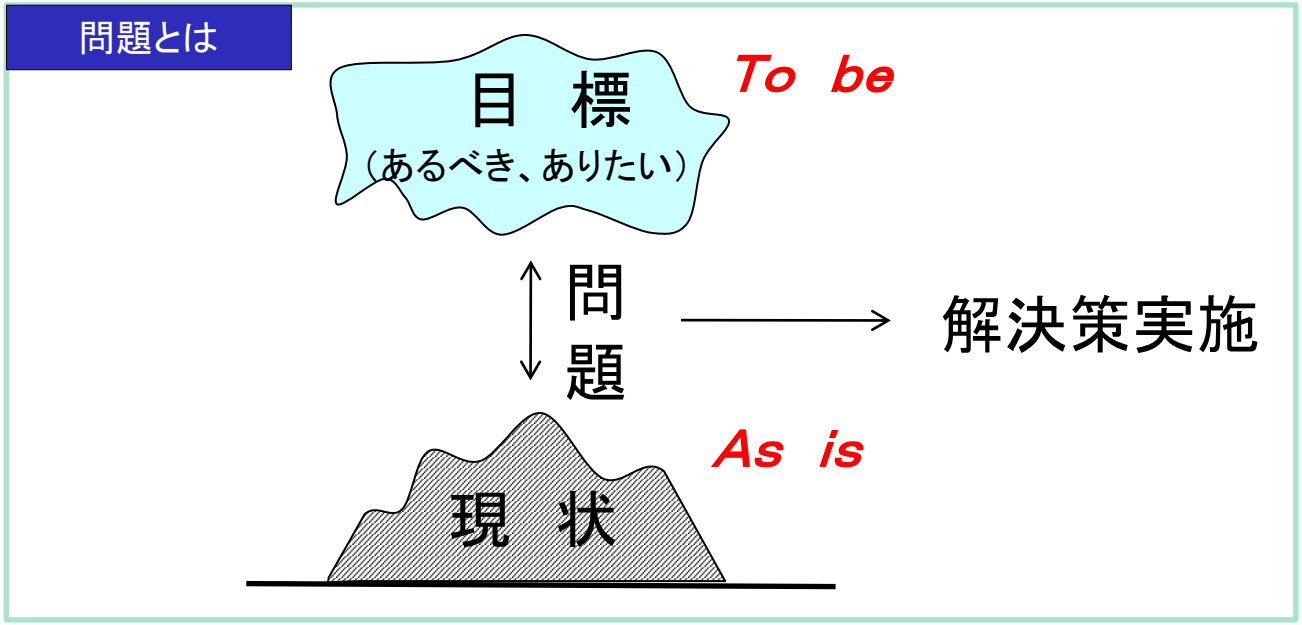
■因果分析

- 因果関係を論理的に追求する方法である。

■なぜなぜ5回

- トヨタの主張で、原因追求を徹底的に行え、そのぐらい追求すると概ね真の原因が出てくる、というものである。

■As is To beアプローチ（問題＝目標と現状の差アプローチ）



禁無断転載・複製

1. ロジカルシンキング＝論理的思考法＝「正しく考える」のツール

■目的思考

- 何かを検討する際に、まず「それは何のためなのか」と考える思考法である。
- こう考えることは、検討の正しい原点となる。
- すべての事象は、目的があって存在しているものだからである。
- 目的思考こそが、論理的思考法の基礎である。

■米国人の思考法

- 米国人の思考の原点は「目的思考」である。
- 開拓時代は、無から有を生み出す時代であり、その際にものごとの方向を決めるのは、目的であったからである。

■日本人の思考法

- 過去の蓄積・遺産のある日本では、ほとんどの事は、過去のしきたりで決められ、改めて目的を問うことは極めて少なかった。
- 上野はこのようなものごとの決定方式を「前例・みんな主義」と称した。

■価値目標思考

- 目的思考を日本人がどうやって身につけたらよいかを解説したのが、「価値目標思考のすすめ」(2004年、上野則男著、堺屋太一氏推薦)である。

禁無断転載・複製

2. ラテラルシンキング＝水平思考法＝「正しく発想する」のツール

推薦図書「3分でわかるラテラルシンキングの基本（山下貴史著、日本実業出版社）

■オズボーンのチェックリスト

以下の9通りの方向で改善案を検討する手法	
1. 他に使い道は？	6. 代用したら
2. 応用できないか？	7. アレンジし直したら
3. 修正したら	8. 逆にしたら
4. 拡大したら	9. 組み合わせたら
5. 縮小したら	

■SCAMPER

オズボーンのチェックリスト等を整理して分り易い名称にしたもの	
Substitute	(換える)
Combine	(結びつける)
Adapt	(適応させる)
Modify	(修正する)
Put to other purposes	(他の目的に使用する)
Eliminate	(除く)
Rearrange/Reverse	(並べ替える/逆にする)

禁無断転載・複製

2. ラテラルシンキング＝水平思考法＝「正しく発想する」のツール

■コトラーの思考法

- （「コトラーのマーケティング思考法」（フィリップ・コトラー著、東洋経済新報社）

コトラーの調査では、アイデアの創出法は以下の6種類に集約されるとのこと。

アイデア創出法は以下の6種類
① 代用：検討要素の1つもしくは複数の要素を取り除き、別のものに置き換えること。他の製品の模倣もここに含まれる。
② 結合：検討要素を保持したまま、ほかの要素を新たに付け加えること。
③ 逆転：検討要素を逆転したり、否定したりすること。
④ 除去：検討要素における1つもしくは複数の要素を取り除くこと。
⑤ 強調：検討要素を極度に拡大もしくは縮小すること。
⑥ 並べ替え：検討要素の1つもしくは複数の要素について、序列や順番を変更すること。

禁無断転載・複製

2. ラテラルシンキング＝水平思考法＝「正しく発想する」のツール

■ブレーンストーミング

- オズボーンが考案した。

ブレーンストーミング実施の4原則
① 他人の意見を批判しない。 ② 他人の意見をヒントにさらに発展させる。 ③ 思いついたことを自由に述べる。 ④ 少しでも多くのアイデアを出す。

■「あの人だったら」発想法

- よく知っている尊敬する人を想定して、「あの人だったらこの場合どう考えるだろうか」と考えてみる。

■ゼロベース思考法

- 過去を忘れて、こだわり・しがらみを捨てて、白紙で考えてみる。

■弁証法

- 正確な弁証法は、その主張者によって深遠な意味があるようであるが、現実に使える論理展開は、正、反、合の論理である。
- まずある問題提起を行う。　例：仕事に多くの時間を費やしている。
- それに対する反対の事象を上げる。　例：しかし、プライベートな時間も必要である。
- 両者を止揚した結論を述べる。　例：仕事の効率を上げて、プライベートな時間も確保する。

禁無断転載・複製

2. ラテラルシンキング＝水平思考法＝「正しく発想する」のツール

■蟻の目・鳥の目・魚の目

- 自分の立ち位置を変えて考える。いわゆる目線を変えてみること。

蟻の目・鳥の目・魚の目

蟻の目：

- 具体的な現場の状況を把握してその立場で考える。
  - ➔ （例）実際にユーザ現場に行って、ユーザの業務運営状況を詳しく観察し、もっと 便利にできる方法はないか等、新たなビジネスチャンスを探す。

鳥の目：

- バーズビューとも言われ、全体を上から鳥瞰する見方で、当該案件の位置づけを確認し、大局観で考える。
  - ➔ （例）自社のバリューチェーンの活動領域を広げて、現在市場と思っていないところ に付加価値を提供できないか等、新たなビジネスチャンスを探す。

魚の目：

- 時間軸の中でものを見る。過去を分析し、その延長で将来はどうなりそうかを予測し、その前提でものごとを考える。
  - ➔ （例）長い時間軸で市場や技術革新の推移と変化を俯瞰して、将来のビジネスチャンスを探す。

禁無断転載・複製

3. クリティカルシンキング＝健全な思考法＝「正しく疑う」のツール

「3分で分かるクリティカルシンキングの基本」小川進・平井孝志著、日本実業出版社

「常識・前提」を疑う	（例）「最適在庫量は何か？」⇒ 「そもそも在庫を持たないことができないか？」
「構造」と「思考の深さ」を疑う	（例）「この需要予測情報は何に基づいているのか？」
「因果関係」を疑う	（例）「英語ができる人は仕事が出来るのか？」
「思考の幅」を疑う	（例）「目的を達成するための方法はそれだけか？」
「問題設定自体」を疑う	（例）あいまいな設問ではあいまいな答えしか得られない
「現実と遊離していないか」を疑う	（例）論理仮説を具体例で把握する
「先入観」を疑う	（例）「中国の顧客は低品質でも安いものを好む」？

- 「価値目標思考」もクリティカルシンキング。
  （注）ロジカルシンキングも含めて、クリティカルシンキングと言う場合もある。

禁無断転載・複製

思考法解説

■ 2. 思考法の適用順序

①問題を設定する（何かを疑う→問題を作る）
（「問題発見」と言われていることもある）

- クリティカルシンキング

②問題を整理する

- ロジカルシンキング

③アイデアを発想する

- ラテラルシンキング

④全体を整理する

- ロジカルシンキング

禁無断転載・複製

思考法解説

■ 3. 優れた問題解決手法の確認

手法名	創案者	備考
TOC（制約理論）	ゴールドラット	ボトルネックの解消法
ワークデザイン手法	ナドラー	目的機能展開で上位機能の実現を目指す手法
KT法	ケプナー、トリゴー	意思決定プロセスの問題分析定型化手法
KJ法	川喜多二郎	問題点の整理手法
QC7つ道具 新QC7つ道具	日科技連	各種問題解決検討のツール
発想チェックリスト	オズボーン	新発想を引きだすチェックリスト
コトラーの発想法	フィリップ・コトラー	新発想を引きだす手法
カウンセラーセールス	ウィルソン・ラーニング社	相手の状況を判断しながら商談を進める手法
問題点連関図手法	システム企画研修	問題解決目的を設定しその解決策を検討する一貫手法

禁無断転載・複製